

外国人留学生の健康とソーシャルキャピタルに 関する研究

－ネパール人留学生及びベトナム人留学生の事例より－

秋谷公博*
akiya@mkjc.ac.jp

<目次>

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. はじめに | 4. 外国人留学生の各特徴間の相関及び健康に
影響を与える要因 |
| 2. 研究の目的と方法 | 5. 外国人留学生の健康とソーシャルキャピタル |
| 3. 外国人留学生の健康とソーシャルキャピタルに
関する調査 | 6. 終わりに |

主題語: ソーシャルキャピタル(Social Capital)、健康(Health)、外国人留学生(International Students)、ネパール人留学生(Nepalese Students)、ベトナム人留学生(Vietnamese Students)

1. はじめに

日本では1983年に「留学生10万人計画」が提言されたのを契機として留学生政策が「文教政策及び対外政策上、重要な国策の一つ」¹⁾として取り組まれ、2003年には初めて外国人留学生数が100,000人を超えた²⁾。2008年には「留学生30万人計画」が表明され、留学生政策を国家戦略として位置付け³⁾、2019年には初めて外国人留学生数が300,000人を超えて312,214人となった⁴⁾。しかし、2020年には新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により279,597人と減少し⁵⁾、近年ではコロナウィルスの影響によるアルバイトの減少に伴う経済的困窮や大学の長期間のオンライン授業による孤立等、外国人留学生を取り巻く様々な経済的精神

* 南九州短期大学 国際教養学科 准教授

1) 中央教育審議会大学分科会留学生部会(2002)

2) 日本学生支援機構(2021)、p.1

3) アジア・ゲートウェイ戦略会議(2007)、p.12

4) 前掲注2、p.1

5) 同上。

的な影響が指摘されている⁶⁾。この様に非常事態下や日々の生活においてももすれば経済的、精神的な影響を受けやすく孤立しがちな外国人留学生の健康面や精神的なサポート等を如何にして地域社会全体等で図っていくかが課題である。この課題を改善するための方策として近年、健康とソーシャルキャピタル⁷⁾との関係性に注目が向けられている。

上記を踏まえて、健康とソーシャルキャピタル等に焦点を当てた研究について見ていくと、儘田(2010)は、日本におけるソーシャルキャピタルと健康に関連する文献のレビューを通して、日本におけるソーシャルキャピタル研究の現状やその概念の有効性について考察し、日本でも健康指標との有意な関連が報告されていることから日本でもソーシャルキャピタルの概念は有効であること等を明らかにしている。相田ら(2014)は、ソーシャル・キャピタルと健康の関連等について検討し、ソーシャルキャピタルを活用した介入が健康を向上させる可能性が示されていること等を明らかにしている。小寺ら(2018)は、外国人留学生の保健行動とその関連の要因について検討し、健康行動と相談できる日本人の数との間で関連が見られるとともに、ホスト国出身者が外国人留学生に対して提供するソーシャルサポートが健康行動の促進に重要な役割を果たしていることを指摘している。安ら(2019)は、抑うつ状況における中国人留学生の援助要請行動のプロセスの関連要因等について日本人大学生との比較をもとに検討し、中国人留学生と日本人学生において抑うつに対する捉え方や援助要請の意思決定プロセスが異なる可能性が示唆されること、中国人留学生において、留学によるソーシャルサポートの喪失等の環境変化も援助要請の特徴に影響を与えている可能性が示唆されること等を明らかにしている。関根ら(2020)は、ソーシャルキャピタルが健康行動への意欲に及ぼす影響について検討し、個人レベルのソーシャルキャピタルと生活習慣の改善に関わる健康行動に対する意欲との間に有意な関連があることを指摘している。劉(2020)は、自覚的健康度と自覚的精神健康度の二つの指標を用いて在日外国人の健康状態を調査し、就労の有無が健康状態に与える影響について検討し、外国人留学生の健康増進のためには、日本語学校、大学等の教育関連組織で適切なメンタルヘルスケアを実施することの重要性が指摘できること等を指摘している。

これらの研究から ソーシャルキャピタルの有効性が見られること、 ソーシャルキャピタルやソーシャルネットワークと健康との間での関連が見られること、 ホスト国出身

6) 西日本新聞me(2021.6.22)及び西日本新聞me(2021.12.12)を参照。

7) 秋谷(2021:259-260)は、Putnam(1993=2001)、Lin(2001=2008)、宮川、大森(2004)、稲葉(2011)のそれぞれの定義を踏まえ、ソーシャルキャピタルを「人々、又はグループ間等で信頼、規範等を基に形作られる社会的ネットワーク」と定義している。本稿では、秋谷(2021)の定義を踏襲して用いている。

者による外国人留学生へのソーシャルサポートが健康行動に重要な役割を果たしていること等が明らかとなっている。こうしたことから、外国人留学生の健康の促進と孤立化等を防ぐための方策としてソーシャルキャピタルの重要性が指摘できるが、近年外国人留学生数の中で増加数が顕著にみられるベトナム人留学生やネパール人留学生⁸⁾の健康とソーシャルキャピタルとを関連付けて検討した研究は見られない。

2. 研究の目的と方法

上述したことを踏まえ、本稿ではネパール人留学生とベトナム人留学生の健康とソーシャルキャピタル等との関連から分析し、外国人留学生の健康とソーシャルキャピタル等の関連性や、外国人留学生の健康に影響を及ぼす要因、外国人留学生への支援の在り方等について明らかにすることを目的としている。本研究のこうした取り組みは、今後の我が国の外国人留学生の健康の増進やサポートの在り方等を考える上で有益な示唆を与えるものと考えられ、研究の意義があるものと考えられる。

本研究の目的を達成するために、日本の大学の中でも外国人留学生が数多く在籍しているF大学を調査対象として選定し、ベトナム人留学生及びネパール人留学生を対象として外国人留学生の健康とソーシャルキャピタルに関する調査及びその分析を目的として日本語で調査票を作成し、2020年1月15日~1月21日の間に授業中に配布・回収する形でアンケート調査を実施した。アンケートは120部配布し、有効票は108部で有効回答率は90.0%である(<表1>)。

<表1> 有効回答率

配布数	120部
有効票	108部
有効回答率	90.0%

出典：筆者作成。

統計解析にはEZ⁹⁾を使用した。ネパール人留学生とベトナム人留学生の比較には、2検定やT検定等を行った。加えて、健康やソーシャルキャピタル等との相関分析においてはスピアマンの順位相関係数分析を、外国人留学生の健康に影響を及ぼす要因については重回帰分析を行った。尚、有意水準はp値が5%未満(p = 0.05)を有意とした。

8) 秋谷(2021)、pp.257-258を参照。

9) EZ⁹⁾は、自治医科大学附属さいたま医療センター血液科HPで無料配布されているフリー統計ソフトである。尚、詳細については、上記HP及びKanda Y.(2013)を参照。

3. 外国人留学生の健康とソーシャルキャピタルに関する調査

3.1 調査対象者の基本属性の特徴

本章では、ネパール人留学生及びベトナム人留学生に実施したアンケート調査の結果を基に論を進めていく。<表2>を基に調査対象者の内訳について見ていくと、ネパール人留学生は55名(男性41名、女性14名)、ベトナム人留学生は53名(男性21名、女性32名)の合計108名である。調査対象者の平均年齢は、ネパール人留学生は24.3歳(年齢最大値=30.0歳、年齢最小値=20.0歳、SD=2.37)、ベトナム人留学生は25.5歳(年齢最大値=36.0歳、年齢最小値=20.0歳、SD=3.03)である。

日本語能力検定試験(以下、JLPT)の資格取得の有無では(<表3>)、ネパール人留学生は「あり」が19人(34.5%)、「なし」が36人(65.5%)とJLPTの無資格者が非常に多く見られる。一方のベトナム人留学生は、「あり」が33人(62.3%)、「なし」が20人(37.7%)と「あり」が非常に多く見られ、ネパール人留学生と真逆の結果となっている。ネパール人留学生とベトナム人留学生のJLPTの資格取得の有無の差を明らかにすることを目的として、 χ^2 検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生とのJLPTの資格取得の有無において有意な差が認められた($\chi^2=7.2333, df=1, p=0.007<0.01$)。<表4>を基にJLPT取得資格の内訳について見ていくと、両国の留学生ともに2級が最も多く、次いで3級の取得者が多く見られ、両国ともに2級と3級がそれぞれ中央値を超えている。2級と3級の値を単純に合算すると、ネパール人留学生の資格取得の94.8%(18人)、ベ

<表2>調査対象者の内訳(国籍)

(単位:人・%)

	ネパール		ベトナム		合計	
男性	41	74.5%	21	39.6%	62	57.4%
女性	14	25.5%	32	60.4%	46	42.6%
合計	55	100.0%	53	100.0%	108	100.0%

出典:筆者作成。

<表3>JLPTの資格取得の有無

(単位:人・%)

	ネパール		ベトナム		合計	
あり	19	34.5%	33	62.3%	52	48.1%
なし	36	65.5%	20	37.7%	56	51.9%
合計	55	100.0%	53	100.0%	108	100.0%

出典:筆者作成。

<表4>JLPT取得資格の内訳

(単位:人・%)

	ネパール		ベトナム		合計	
1級	0	0.0%	1	3.0%	1	1.9%
2級	12	63.2%	20	60.6%	32	61.5%
3級	6	31.6%	12	36.4%	18	34.6%
4級	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5級	1	5.3%	0	0.0%	1	1.9%
合計	19	100.0%	33	100.0%	52	100.0%
中央値	1	5.3%	1	3.0%	1	1.9%

出典:筆者作成。

注:対象者は<表3>で「あり」を選択した52名である。

トナム人留学生の資格取得の97.0%(32人)をそれぞれ占め、外国人留学生全体の実に96.1%(50人)と両国の資格取得が2級と3級に集中している。一方、JLPTの1級の取得者はベトナム人留学生の一人のみに留まっている。

ネパール人留学生とベトナム人留学生のJLPT資格取得の内訳の差を明らかにすることを目的として、マンホイットニーのU検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生とのJLPT資格取得の内訳において有意な差は認められなかった($p=0.772>0.05$)。

3.2 外国人留学生のソーシャルキャピタルの特徴

悩みを相談できる人物の有無について加重平均値を基に見ていくと(<表5>)、ネパール人留学生は「たくさんいる」、「いる」の合計が36人(65.5%)で加重平均値は3.33、ベトナム人留学生は、「たくさんいる」、「いる」の合計が26人(49.0%)で加重平均値が3.06と両国ともに3を超えた値となっている。外国人留学生全体の加重平均値も3.19となっていることから、両国ともに悩みを相談できる人物がいないと回答している学生よりも悩みを相談できる人物がいると回答している学生の方が多く見られる。しかし、その一方で、ベトナム人留学生は、「あまりいない」、「まったくいない」と回答している学生が24人(45.2%)と過半数に近い値となっており、悩みを相談できる人物がいないと感じている学生も多く見られる。

<表5>悩みを相談できる人物の有無(単位:人・%)

	たくさんいる	いる	わからない	あまりいない	まったくいない	合計	加重平均値
ネパール	5 9.1%	31 56.4%	2 3.6%	11 20.0%	6 10.9%	55 100.0%	3.33
ベトナム	6 11.3%	20 37.7%	3 5.7%	19 35.8%	5 9.4%	53 100.0%	3.06
合計	11 10.2%	51 47.2%	5 4.6%	30 27.8%	11 10.2%	108 100.0%	3.19

出典：筆者作成。
注：加重平均値は、各項目の人数を基に「たくさんいる」=5、「いる」=4、「わからない」=3、「あまりいない」=2、「まったくいない」=1で算出した。

ネパール人留学生とベトナム人留学生の悩みを相談できる人物の有無の差を明らかにすることを目的として、対応のない検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生との悩みを相談できる人物の有無において有意な差は認められなかった($t=-1.1342, df=106, p=0.259>0.05$)。

悩みを相談できる人物について見ていくと(<表6>)、上位1位から5位までが外国人留学生全体の中央値7.5人(12.1%)を超えている。とりわけ、1位の「大学の同じ国籍の友人」が38人(61.3%)と、中央値の約5倍と高い値となっている。国籍別では、ネパール人留学生、ベトナム人留学生ともに共通して「大学の同じ国籍の友人」が最も多く見られる。次いでネパー

ル人留学生は「大学の外国人(日本人除く)の友人」と「SNSやインターネットで知り合った人物」が7人(19.4%)と2番目に多くなっている。一方のベトナム人留学生は、「家族」が9人(34.6%)で2位、次いで「アルバイト先の同じ国籍の友人」と「アルバイト先の日本人の友人」が同数の7人(26.9%)で3位となっている。

相談内容の内訳について

見ていくと(<表7>)、外国人留学生全体では上位1位から4位までが中央値18人(29.0%)を超えている。国別では、ネパール人留学生は「お金についての悩み」が16人(44.4%)と最も多く、次いで「生活についての悩み」、「将来についての悩み」が同数の12人(33.3%)と多くなっている。一方のベトナム人留学生では、「生活についての悩み」が16人(61.5%)と最も多く、次いで「将来についての悩み」が13人(50.0%)、「ビザについての悩み」が12人(46.2%)、「お金についての悩み」が11人(42.3%)と、1位~4位までの割合が40%を超える等高い値となっている。

悩みを相談できる人がいない理由について見ていくと(<表8>)、外国人留学生全体では1位の「信用できる人がいない」が17人(41.5%)、同数で2位の「悩みを相談できるほど仲が良い人がいない」、「誰に相談したらよいかわからない」がそれぞれ9人(22.0%)で中央値の7.5人(18.3%)を超えている。とりわけ、外国人留学生全体1位の「信用できる人がいない」がネ

<表6>悩みを相談できる人物の内訳(単位:人・%)

順位	項目	ネパール(N=36人)		ベトナム(N=26人)		合計(N=62人)	
1	大学の同じ国籍の友人	27	75.0%	11	42.3%	38	61.3%
2	大学の外国人(日本人除く)の友人	7	19.4%	5	19.2%	12	19.4%
2	家族	3	8.3%	9	34.6%	12	19.4%
3	アルバイト先の同じ国籍の友人	3	8.3%	7	26.9%	10	16.1%
4	アルバイト先の日本人の友人	2	5.6%	7	26.9%	9	14.5%
5	大学の先生	5	13.9%	3	11.5%	8	12.9%
6	アルバイト先の外国人(日本人除く)の友人	2	5.6%	5	19.2%	7	11.3%
6	SNSやインターネットで知り合った人物	7	19.4%	0	0.0%	7	11.3%
8	大学の日本人の友人	3	8.3%	1	3.8%	4	6.5%
8	大学の職員	0	0.0%	4	15.4%	4	6.5%
8	アルバイト先の日本人の社員	3	8.3%	1	3.8%	4	6.5%
11	その他	1	2.8%	1	3.8%	2	3.2%
中央値		3	8.3%	4.5	17.3%	7.5	12.1%

出典:筆者作成。

注:対象者は<表5>で「たくさんいる」、「いる」と回答した62名である。尚、複数回答である。

<表7>相談内容の内訳(単位:人・%)

順位	項目	ネパール(N=36人)		ベトナム(N=26人)		合計(N=62人)	
1	生活についての悩み	12	33.3%	16	61.5%	28	45.2%
2	お金についての悩み	16	44.4%	11	42.3%	27	43.5%
3	将来についての悩み	12	33.3%	13	50.0%	25	40.3%
4	ビザについての悩み	9	25.0%	12	46.2%	21	33.9%
5	健康についての悩み	11	30.6%	7	26.9%	18	29.0%
5	勉強についての悩み	8	22.2%	10	38.5%	18	29.0%
7	大学生活についての悩み	7	19.4%	10	38.5%	17	27.4%
8	アルバイトについての悩み	8	22.2%	7	26.9%	15	24.2%
9	恋愛についての悩み	6	16.7%	2	7.7%	8	12.9%
10	その他	1	2.8%	0	0.0%	1	1.6%
中央値		8.5	23.6%	10	38.5%	18	29.0%

出典:筆者作成。

注:対象者は<表5>で「たくさんいる」、「いる」と回答した62名である。尚、複数回答である。

パル人留学生及びベトナム人留学生に共通して高い傾向が見られ、悩みを相談できる人がいないと考えている学生においては、他者とのソーシャルキャピタルの結びつきの弱さがその要因の一つになっているものと推察される。加えて、外国人留学生全体及びベトナム人留学生でも2位となっている「誰に相談したらよいかわからない」との意見がベトナム人留学生では多く見られることから悩み相談等の支援の必要性が指摘できる。

<表8>悩みを相談できる人がいない理由(単位：人・%)

順位	項目	ネパール (N=17人)		ベトナム (N=24人)		合計 (N=41人)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	信用できる人がいない	7	41.2%	10	41.7%	17	41.5%
2	悩みを相談できるほど仲が良い人がいない	6	35.3%	3	12.5%	9	22.0%
2	誰に相談したらよいかわからない	1	5.9%	8	33.3%	9	22.0%
4	人に相談しても解決することが出来ない	0	0.0%	6	25.0%	6	14.6%
5	人に悩みを相談したくない	3	17.6%	2	8.3%	5	12.2%
6	その他	2	11.8%	0	0.0%	2	4.9%
中央値		2.5	14.7%	4.5	18.8%	7.5	18.3%

出典：筆者作成。

注：対象者は<表5>で「あまりいいない」、「まったくいいない」と回答した41名である。尚、複数回答である。

3.3 外国人留学生の健康面等の特徴

健康状態の良し悪しについて加重平均値を基に見ていくと(<表9>)、ネパール人留学生は「非常に良い」、「良い」の合計が29人(52.7%)、「悪い」、「非常に悪い」の合計が19人(34.5%)と「非常に良い」、「良い」の方が多くなっており、加重平均値も3.25である。ベトナム人留学生も同様に「非常に良い」、「良い」の合計が32人(60.4%)と「悪い」、「非常に悪い」の人数9人(17.0%)よりも上回っており、加重平均値も3.60となっている。外国人留学生全体の加重平均値も3.44となっていることから、両国ともに健康状態が良いと感じている学生の方が多く見られる。

<表9>健康状態の良し悪し(単位：人・%)

	非常に良い	良い	どちらともいえない	悪い	非常に悪い	合計	加重平均値
ネパール	11	18	7	12	7	55	3.25
	20.0%	32.7%	12.7%	21.8%	12.7%	100.0%	
ベトナム	11	21	12	8	1	53	3.60
	20.8%	39.6%	22.6%	15.1%	1.9%	100.0%	
合計	22	39	19	20	8	108	3.44
	20.4%	36.1%	17.6%	18.5%	7.4%	100.0%	

出典：筆者作成。

注：加重平均値は、各項目の人数を基に「非常によい」=5、「良い」=4、「どちらともいえない」=3、「悪い」=2、「非常に悪い」=1で算出した。

ネパール人留学生とベトナム人留学生の健康状態の差を明らかにすることを目的として、対応のないt検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生との健康状態において有意な差は認められなかった($t=1.582$, $df=106$, $p=0.117>0.05$)。

一方で、健康状態が「悪い」、「非常に悪い」と回答した28人のその理由について見ていく

と(<表10>)、ネパール人留学生では「ホームシックになっている」が9人(47.4%)と最も多く、同値と「将来について不安に思うことがある」、「精神的な悩みがある」の不安や精神的な悩み抱えている学生数3人(15.8%)をそれぞれ単純に合算すると15人と、精神面に問題を抱えている学生が多く見られる。一方のベトナム人留学生は、「将来について不安に思うことがある」が5人(55.6%)と最も多く、「精神的な悩みがある」と回答している1名(11.1%)と合算すると、6名(66.7%)が精神面に問題を抱えていることがわかる。両国の留学生ともに同様の傾向が見られることから、カウンセリング等の精神面のサポートの重要性が指摘できる。

ストレスの有無について加重平均値を基に見ていくと(<表11>)、ネパール人留学生は、「非常にある」、「ある」の合計が23人(41.8%)、「あまりない」、「まったくない」の合計が19人(34.5%)と「非常にある」、「ある」の方が多くなっており、加重平均値も3.13である。ベトナム人留学生も同様に「非常にある」、「ある」の合計が23人(43.3%)と「あまりない」、「ない」の人数19人(26.4%)よりも上回っており、加重平均値も3.21となっている。外国人留学生全体の加重平均値も3.17となっていることから、両国ともにストレスが「ない」と感じている学生よりも「ある」と感じている学生の方が多く見られる。

ネパール人留学生とベトナム人留学生のストレスの有無の差を明らかにすることを目的として、対応のないt検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生とのストレスの有無において有意な差は認められなかった($t=0.35679$, $df=106$, $p=0.722 > 0.05$)。

孤独感の有無について加重平均値を基に見ていくと(<表12>)、ネパール人留学生は、「非

<表10>健康状態がすぐれない理由(単位:人・%)

順位	項目	①ネパール(N=19人)		②ベトナム(N=9人)		③合計(N=28人)	
1	ホームシックになっている	9	47.4%	0	0.0%	9	32.1%
2	将来について不安に思うことがある	3	15.8%	5	55.6%	8	28.6%
3	精神的な悩みがある	3	15.8%	1	11.1%	4	14.3%
3	怪我をしている	4	21.1%	0	0.0%	4	14.3%
5	病気をしている	0	0.0%	3	33.3%	3	10.7%
6	その他	0	0.0%	2	22.2%	2	7.1%
中央値		3	15.8%	1.5	16.7%	4	14.3%

出典:筆者作成。

注:対象者は<表9>で「悪い」、「非常に悪い」と回答した28名である。尚、複数回答である。

<表11>ストレスの有無(単位:人・%)

	非常に ある	ある	どちらとも いえない	あまり ない	まった くない	合計	加重平 均値
ネパール	10	13	13	12	7	55	3.13
	18.2%	23.6%	23.6%	21.8%	12.7%	100.0%	
ベトナム	4	19	16	12	2	53	3.21
	7.5%	35.8%	30.2%	22.6%	3.8%	100.0%	
合計	14	32	29	24	9	108	3.17
	13.0%	29.6%	26.9%	22.2%	8.3%	100.0%	

出典:筆者作成。

注:加重平均値は、各項目の人数を基に「非常にある」=5、「ある」=4、「どちらともいえない」=3、「あまりない」=2、「まったくない」=1で算出した。

常にある」、「ある」の合計18人(32.7%)よりも「あまりない」、「まったくない」の人数24人(43.6%)の方が上回っており、加重平均値も2.93となっている。ベトナム人留学生も同様に「非常にある」、「ある」の合計16人(30.2%)よりも「あまりない」、「まったくない」の合計22人(41.5%)の方が多く、加重平均値も2.91となっている。外国人留学生全体の加重平均値も2.92であることから、両国ともに孤独を感じている学生よりも孤独を感じていないと思っている学生の方が多く見られる。

<表12>孤独感の有無(単位:人・%)

	非常にある	ある	どちらともいえない	あまりない	まったくない	合計	加重平均値
ネパール	8	10	13	18	6	55	2.93
	14.5%	18.2%	23.6%	32.7%	10.9%	100.0%	
ベトナム	5	11	15	18	4	53	2.91
	9.4%	20.8%	28.3%	34.0%	7.5%	100.0%	
合計	13	21	28	36	10	108	2.92
	12.0%	19.4%	25.9%	33.3%	9.3%	100.0%	

出典：筆者作成。
注：加重平均値は、各項目の人数を基に「非常にある」=5、「ある」=4、「どちらともいえない」=3、「あまりない」=2、「まったくない」=1で算出した。

ネパール人留学生とベトナム人留学生の孤独感の有無の差を明らかにすることを目的として、対応のないt検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生との孤独感の有無において有意な差は認められなかった($t=0.094947$, $df=106$, $p=0.923>0.05$)。

将来への不安の有無について見ていくと(<表13>)、ネパール人留学生は、「非常にある」、「ある」の合計が23人(41.9%)と、「あまりない」、「まったくない」の合計17人(31.0%)よりも多く、加重平均値も3.22となっている。ベトナム人留学生も同様に「非常にある」、「ある」の合計28人(52.9%)の方が「あまりない」、「まったくない」の合計11人(20.8%)を上回っており、加重平均値も3.34となっている。外国人留学生全体の加重平均値も3.28であることから、両国ともに将来への不安を感じている学生が多く見られる。とりわけ、ベトナム人留学生では実に半数以上の学生が将来への不安を感じており、精神的な不安が深刻化している様子が窺える。

<表13>将来への不安の有無(単位:人・%)

	非常にある	ある	どちらともいえない	あまりない	まったくない	合計	加重平均値
ネパール	9	14	15	14	3	55	3.22
	16.4%	25.5%	27.3%	25.5%	5.5%	100.0%	
ベトナム	3	25	14	9	2	53	3.34
	5.7%	47.2%	26.4%	17.0%	3.8%	100.0%	
合計	12	39	29	23	5	108	3.28
	11.1%	36.1%	26.9%	21.3%	4.6%	100.0%	

出典：筆者作成。
注：加重平均値は、各項目の人数を基に「非常にある」=5、「ある」=4、「どちらともいえない」=3、「あまりない」=2、「まったくない」=1で算出した。

ネパール人留学生とベトナム人留学生の将来への不安の有無の差を明らかにすることを目的として、対応のないt検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生との孤独感の有無において有意な差は認められなかった($t=0.58986$, $df=106$, $p=0.557>0.05$)。

体調不良時の通院の有無について見ていくと(<表14>)、ネパール人留学生は、「非常にあ

る」、「ある」の合計22人(40.0%)より「あまりない」、「まったくない」の合計27人(49.1%)の方が多く、加重平均値も2.85となっている。ベトナム人留学生も同様に「非常にある」、「ある」の合計15人(28.3%)よりも「あまりない」、「まったくない」の合計30人(56.6%)の方が多く、加重平均値も2.64となっている。外国人留学生全体の加重平均値も2.75であることから、両国ともに体調不良時に通院しない学生が多く見られる。とりわけ、ネパール人留学生では約半数の49.1%、ベトナム人留学生では半数以上の実に56.6%の学生が体調不良時に通院していないと回答している。

ネパール人留学生とベトナム人留学生の体調不良時の通院の有無の差を明らかにすることを目的として、対応のないt検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生との体調不良時の通院の有無において有意な差は認められなかった($t=-0.91519$, $df=106$, $p=0.3622>0.05$)。

体調不良時に通院しない理由について中央値を基に見ていくと(<表15>)、ネパール人留学生とベトナム人留学生ともに「日本語に不安がある」が最も多く、それぞれ40%を超えている。次いで、ネパール人留学生では、「お金がもったいない」が7人(25.9%)、ベトナム人留学生では、「どこの病院に行ったら良いか分からない」が11人(36.7%)と高くなっている。外国人留学生全体では、「日本語に不安がある」が25人(43.9%)と最も多く、次いで「お金がもったいない」、「どこの病院に行ったら良いか分からない」が同数の13人(22.8%)と高くなっている。とりわけ、「日本語に不安がある」や「どこの病院に行ったら良いか分からない」等を理由として挙げている学生が多く見られることから、通院時の日本語サポートや通院でき

<表14>体調不良時の通院の有無(単位:人・%)

	非常にある	ある	どちらともいえない	あまりない	まったくくない	合計	加重平均値
ネパール	6	16	6	18	9	55	2.85
	10.9%	29.1%	10.9%	32.7%	16.4%	100.0%	
ベトナム	2	13	8	24	6	53	2.64
	3.8%	24.5%	15.1%	45.3%	11.3%	100.0%	
合計	8	29	14	42	15	108	2.75
	7.4%	26.9%	13.0%	38.9%	13.9%	100.0%	

出典:筆者作成。

注:加重平均値は、各項目の人数を基に「非常にある」=5、「ある」=4、「どちらともいえない」=3、「あまりない」=2、「まったくくない」=1で算出した。

<表15>体調不良時に通院しない理由(単位:人・%)

順位	項目	①ネパール(N=27人)	②ベトナム(N=30人)	③合計(N=57人)
1	日本語に不安がある	12 44.4%	13 43.3%	25 43.9%
2	お金がもったいない	7 25.9%	6 20.0%	13 22.8%
2	どこの病院に行ったら良いか分からない	2 7.4%	11 36.7%	13 22.8%
4	健康保険を払っていない	5 18.5%	3 10.0%	8 14.0%
5	市販の薬で十分治せる	3 11.1%	4 13.3%	7 12.3%
6	病院に行く時間が無い	0 0.0%	5 16.7%	5 8.8%
7	その他	1 3.7%	2 6.7%	3 5.3%
	中央値	3 11.1%	5 16.7%	8 14.0%

出典:筆者作成。

注:対象者は<表14>で「あまりない」、「まったくくない」と回答した57名である。尚、複数回答である。

る病院の情報提供サポート等の重要性が指摘できる。また、ネパール人留学生の中には、「健康保険料を払っていない」と回答している学生も5人(18.5%)いることから、健康保険の重要性を認識してもらうための講習会等の必要性も指摘できる。

病気時等に期待されるサポート授受の対象について中央値を基に見ていくと(<表16>)、外国人留学生全体では、1位の「誰もいない」36人(33.3%)~4位の「家族」10人(9.3%)までが中央値7人(6.5%)を超えている。とりわけ、上位1位の「誰もいない」と2位の「大学の同じ国籍の友人」がそれぞれ30%を超えている。国別でも同様に、ネパール人留学生では「大学の同じ国籍の友人」が20人(36.4%)と最も多く、2位の「誰もいない」が17人

<表16>病気時等に期待されるサポート授受の対象

(単位：人・%)

順位	項目	①ネパール (N=55人)		②ベトナム (N=53人)		③合計 (N=108人)	
1	誰もいない	17	30.9%	19	35.8%	36	33.3%
2	大学の同じ国籍の友人	20	36.4%	13	24.5%	33	30.6%
3	アルバイト先の同じ国籍の友人	5	9.1%	9	17.0%	14	13.0%
4	大学の外国人(日本人除く)の友人	6	10.9%	4	7.5%	10	9.3%
4	アルバイト先の日本人の友人	3	5.5%	7	13.2%	10	9.3%
4	家族	6	10.9%	4	7.5%	10	9.3%
7	大学の先生	5	9.1%	2	3.8%	7	6.5%
8	大学の職員	4	7.3%	2	3.8%	6	5.6%
8	アルバイト先の外国人(日本人除く)の友人	4	7.3%	2	3.8%	6	5.6%
8	SNSやインターネットで知り合った人物等	1	1.8%	5	9.4%	6	5.6%
11	アルバイト先の日本人の社員	3	5.5%	1	1.9%	4	3.7%
12	大学の日本人の友人	2	3.6%	1	1.9%	3	2.8%
	中央値	4	7.3%	4	7.5%	7	6.5%

出典：筆者作成。
注：複数回答である。

(30.9%)、ベトナム人留学生では、1位の「誰もいない」が19人(35.8%)、2位の「大学の同じ国籍の友人」が13人(24.5%)となっており、ネパール人留学生ではそれぞれ30%以上、ベトナム人留学生ではそれぞれ24%以上を超えている。従って、病気時等に期待されるサポート授受において、「誰もいない」と回答している学生に見られるように他者とのソーシャルキャピタルの結びつきが弱いと感じている学生が多くいるものと推察される。しかしその一方で、サポートを授受できる対象として、両国ともに「大学の同じ国籍の友人」とのソーシャルキャピタルの結びつきが強い傾向が見られる。

3.4 外国人留学生の日本の生活の特徴

日本の生活の状況について加重平均値を基に見ていくと(<表17>)、ネパール人留学生は「非常に大変である」、「大変である」の合計が46人(83.7%)、「あまり大変ではない」、「まったく大変ではない」の合計が8人(14.5%)と「非常に大変である」、「大変である」の方が多く

なっており、加重平均値も4.05と非常に高い値となっている。ベトナム人留学生も同様に「非常に大変である」、「大変である」の合計が37人(69.9%)と「あまり大変ではない」、「まったく大変ではない」の人数13人(24.5%)よりも上回っており、加重平均値も3.64と高くなっている。外国人留学生全体の加重平均値も3.85となっていることから、両

国ともに日本での生活が大変であると感じている学生が多く見られる。とりわけ、ネパール人留学生の加重平均値が4.05と高い値となっていることから、同国の留学生において日本での生活が非常に困難なものであると考えられる。

ネパール人留学生とベトナム人留学生の日本の生活の状況の差を明らかにすることを目的として、対応のないt検定を行った。その結果、ネパール人留学生の方が日本の生活が大変であると感じている学生が多く認められるという有意な差が認められた($t=-2.0422$, $df=106$, $p=0.044<0.05$)。

日本の生活が大変だと感じる理由について見ていくと(<表18>)、外国人留学生全体では、上位1位から5位までが中央値13人(15.7%)を超えている。国別では、ネパール人留学生は「生活費を稼がなければいけない」が23人(50.0%)と最も多く、次いで「週28時間のアルバイトでは生活が大変」が22人(47.8%)、「学費を稼がなければいけない」が19人(41.3%)、「アルバイトをしなければいけない」が11人(23.9%)と、上位1位~4位までが中央値6人(13.0%)を超え

<表17>日本の生活の状況(単位:人・%)

	非常に大変である	大変である	どちらともいえない	あまり大変ではない	まったく大変ではない	合計	加重平均値
ネパール	20 36.4%	26 47.3%	1 1.8%	8 14.5%	0 0.0%	55 100.0%	4.05
ベトナム	11 20.8%	26 49.1%	3 5.7%	12 22.6%	1 1.9%	53 100.0%	3.64
合計	31 28.7%	52 48.1%	4 3.7%	20 18.5%	1 0.9%	108 100.0%	3.85

出典：筆者作成。

注：加重平均値は、各項目の人数を基に「非常に大変である」=5、「大変である」=4、「どちらともいえない」=3、「あまり大変ではない」=2、「まったく大変ではない」=1で算出した。

<表18>日本の生活が大変だと感じる理由(単位:人・%)

順位	項目	①ネパール(N=46人)		②ベトナム(N=37人)		③合計(N=83人)	
1	週28時間のアルバイトでは生活が大変	22	47.8%	20	54.1%	42	50.6%
2	学費を稼がなければいけない	19	41.3%	21	56.8%	40	48.2%
2	生活費を稼がなければいけない	23	50.0%	17	45.9%	40	48.2%
4	アルバイトをしなければいけない	11	23.9%	9	24.3%	20	24.1%
5	家賃が高い	6	13.0%	11	29.7%	17	20.5%
6	日本語が分からない	9	19.6%	4	10.8%	13	15.7%
7	勉強が大変	1	2.2%	6	16.2%	7	8.4%
8	悩みを相談できる人がいない	4	8.7%	2	5.4%	6	7.2%
9	日本の文化が合わない	1	2.2%	4	10.8%	5	6.0%
9	信頼できる人がいない	3	6.5%	2	5.4%	5	6.0%
11	その他	1	2.2%	2	5.4%	3	3.6%
	中央値	6	13.0%	6	16.2%	13	15.7%

出典：筆者作成。

注：対象者は<表17>で「非常に大変である」、「大変である」と回答した83名である。尚、複数回答である。

ている。一方のベトナム人留学生では、1位の「学費を稼がなければいけない」の21人(56.8%)から第5位の「家賃が高い」の11人(29.7%)までが中央値6人(16.2%)を超えている。外国人留学生全体の1位と2位が国別ともにそれぞれ40%を超える程高い値となっている。加えて、外国人留学生全体の上位5位までが学費や家賃、生活費やアルバイト等の金銭的な理由に該当するものであるため、両国ともに金銭的な理由によって日本での生活が大変と感じている傾向が見られる。

日本の生活で大変な時に期待されるサポート授受の対象について中央値を基に見ていくと(<表19>)、外国人留学生全体では1位の「大学の同じ国籍の友人」の38人(35.2%)から6位の「アルバイト先の外国人(日本人を除く)の友人」の8人(7.4%)までが中央値7人(6.5%)を超えている。とりわけ、上位1位と2位の順位は異なるが、<表16>と同様に両項目ともに30%を超えている。国別に見ていくと、ネ

<表19>日本の生活で大変な時に期待されるサポート授受の対象(単位:人・%)

順位	項目	①ネパール(N=55人)		②ベトナム(N=53人)		③合計(N=108人)	
1	大学の同じ国籍の友人	23	41.8%	15	28.3%	38	35.2%
2	誰もいない	16	29.1%	17	32.1%	33	30.6%
2	アルバイト先の同じ国籍の友人	10	18.2%	11	20.8%	21	19.4%
4	家族	7	12.7%	10	18.9%	17	15.7%
5	アルバイト先の日本人の友人	5	9.1%	6	11.3%	11	10.2%
6	アルバイト先の外国人(日本人を除く)の友人	4	7.3%	4	7.5%	8	7.4%
7	大学の外国人(日本人を除く)の友人	2	3.6%	5	9.4%	7	6.5%
7	大学の先生	3	5.5%	4	7.5%	7	6.5%
9	アルバイト先の日本人の社員	4	7.3%	1	1.9%	5	4.6%
9	大学の職員	2	3.6%	2	3.8%	4	3.7%
11	大学の日本人の友人	1	1.8%	2	3.8%	3	2.8%
11	SNSやインターネットで知り合った人物等	0	0.0%	3	5.7%	3	2.8%
13	その他	1	1.8%	1	1.9%	2	1.9%
	中央値	4	7.3%	4	7.5%	7	6.5%

出典：筆者作成。
注：複数回答である。

パール人留学生では「大学の同じ国籍の友人」が23人(41.8%)で最も多く、次いで「誰もいない」が16人(29.1%)、「アルバイト先の同じ国籍の友人」が10人(18.2%)、「家族」が7人(12.7%)の上位4位までがそれぞれ10%を超えている。一方のベトナム人留学生は、「誰もいない」が17人(32.1%)で最も多く、次いで「大学の同じ国籍の友人」が15人(28.3%)、「アルバイト先の同じ国籍の友人」が11人(20.8%)、「家族」が10人(18.9%)、「アルバイト先の日本人の友人」(11.3%)と、上位5位までが10%を超えている。ネパール人留学生、ベトナム人留学生ともに上位1位と2位の順位は、<表16>と同様の順位となっている。従って、病気時等に期待されるサポート授受と同様に両国ともに日本での生活で大変な時期に誰からもサポートを得ることが出来ないと考えている学生が多くいるといえる。しかし一方で、日本の生活で大変な時に期待されるサポート授受の対象として、ネパール人留学生及びベトナム人留学生ともに、「大学の同じ国籍の友人」が最も多く見られるとともに、「アルバイト先の同じ国籍の友人」、「家族」等の同じ国籍の友人等とのソーシャルキャピタルを通じたサポートが得られ

ると回答している傾向が多く見られる。加えて、ベトナム人留学生においては、「アルバイト先の日本人の友人」とのソーシャルキャピタルの繋がりも若干ではあるが見られる。

大学等での健康等の支援の必要性の有無について加重平均値を基に見ていくと(<表20>)、ネパール人留学生は、「非常に必要」、「必要」の合計が41人(74.5%)、「必要ではない」、「まったく必要ではない」の合計が1人(1.8%)と「非常に必要」、「必要」の方が多くなっており、加重平均値も4.05と非常に高い値となっている。ベ

トナム人留学生も同様に「非常に必要」、「必要」の合計が36人(67.9%)と「必要ではない」、「まったく必要ではない」の人数5人(9.4%)よりも上回っており、加重平均値も3.85と高くなっている。外国人留学生全体の加重平均値も3.95となっていることから、両国ともに大学等での健康等の支援が必要であると感じている学生が多く見られる。とりわけ、ネパール人留学生の加重平均値が4.05と高い値となっている。

ネパール人留学生とベトナム人留学生の大学等での健康等の支援の必要性の有無の差を明らかにすることを目的として、対応のないt検定を行った。その結果、ネパール人留学生とベトナム人留学生との大学等での健康等の支援の必要性の有無において有意な差は認められなかった($t=-1.2317$, $df=106$, $p=0.221>0.05$)。

大学等での健康関連での必要な支援の内容について見ていくと(<表21>)、外国人留学生全体では、

<表20>大学等での健康等の支援の必要性の有無

(単位：人・%)

	非常に必要	必要	どちらともいえない	必要ではない	まったく必要ではない	合計	加重平均値
ネパール	18	23	13	1	0	55	4.05
	32.7%	41.8%	23.6%	1.8%	0.0%	100.0%	
ベトナム	14	22	12	5	0	53	3.85
	26.4%	41.5%	22.6%	9.4%	0.0%	100.0%	
合計	32	45	25	6	0	108	3.95
	29.6%	41.7%	23.1%	5.6%	0.0%	100.0%	

出典：筆者作成。

注：加重平均値は、各項目の人数を基に「非常に必要」=5、「必要」=4、「どちらともいえない」=3、「必要ではない」=2、「まったく必要ではない」=1で算出した。

<表21>大学等での健康関連での必要な支援の内容(単位：人・%)

順位	項目	①ネパール (N=41人)		②ベトナム (N=36人)		③合計 (N=77人)	
1	同じ国籍の職員のカウンセラー	11	26.8%	12	33.3%	23	29.9%
2	健康診断	2	4.9%	11	30.6%	13	16.9%
2	病気や事故にあった際の連絡先などの支援	6	14.6%	7	19.4%	13	16.9%
4	教員による悩み相談	8	19.5%	3	8.3%	11	14.3%
5	日本人職員のカウンセラー	4	9.8%	6	16.7%	10	13.0%
6	保健室	2	4.9%	7	19.4%	9	11.7%
7	職員による悩み相談	6	14.6%	2	5.6%	8	10.4%
7	病院への紹介支援	3	7.3%	5	13.9%	8	10.4%
9	その他	2	4.9%	2	5.6%	4	5.2%
	中央値	4	9.8%	6	16.7%	10	13.0%

出典：筆者作成。

注：対象者は<表20>で「非常に必要」、「必要」と回答した77名である。尚、複数回答である。

上位1位から4位までが中央値10人(13.0%)を超えている。国別では、ネパール人留学生は「同じ国籍の職員のカウンセラー」が11人(26.8%)と最も多く、次いで「教員による悩み相談」が8人(19.5%)、「病気や事故にあった際の連絡先等の支援」及び「職員による悩み相談」が同数の6人(14.6%)と、上位1位~3位までが中央値4人(9.8%)を超えている。一方のベトナム人留学生では、「同じ国籍の職員のカウンセラー」が12人(33.3%)と最も多く見られ、次いで「健康診断」の11人(30.6%)、「病気や事故にあった際の連絡先等の支援」及び「保健室」が同数の7人(19.4%)と、上位1位~3位までが中央値6人(16.7%)を超えている。国別、外国人留学生全体ともに、上位1位の「同じ国籍の職員のカウンセラー」が共通して最も多く見られ、同じ国籍の職員のカウンセラーの必要性が指摘できる。

4. 外国人留学生の各特徴間の相関及び健康に影響を与える要因

4.1 外国人留学生の各特徴間に見られる相関関係

「調査対象者の内訳(国籍)(<表2>)」、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)、「悩みを相談できる人物の有無」(<表5>)、「健康状態の良し悪し」(<表9>)、「ストレスの有無」(<表11>)、「孤独感の有無」(<表12>)、「将来への不安の有無」(<表13>)、「体調不良時の通院の有無」(<表14>)、「日本の生活の状況」(<表17>)、「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)を基に、各項目との関係の有無について調べるためにスピアマンの順位相関係数分析を行った(<表22>及び<表23>)。まず、外国人留学生全体について見ていくと、「調査対象者の内訳(国籍)(<表2>)と「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)($r = -0.277$, $p = 0.004 < 0.01$)では、双方との間に負の弱い相関があり、両者の相関は統計学的に有意であった(<表22>)。「調査対象者の内訳(国籍)(<表2>)と「日本の生活の状況」(<表17>)($r = 0.203$, $p = 0.035 < 0.05$)、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)と「健康状態の良し悪し」(<表9>)($r = 0.298$, $p = 0.002 < 0.01$)、「ストレスの有無」(<表11>)と「孤独感の有無」(<表12>)($r = 0.651$, $p < 0.001$)、「ストレスの有無」(<表11>)と「将来への不安の有無」(<表13>)($r = 0.566$, $p < 0.001$)、「孤独感の有無」(<表12>)と「将来への不安の有無」(<表13>)($r = 0.469$, $p < 0.001$)、「孤独感の有無」(<表12>)と「日本の生活の状況」(<表17>)($r = 0.212$, $p = 0.028 < 0.05$)では、いずれも双方との間に正の相関が認められ、両者の相関は統計学的に有意であった(<表22>及び<表23>)。外国人留学生全体では、

<表22>各項目の相関対応表1

番号	対応表	項目内容		ネパール	ベトナム	全体
No.1	表2・表3	調査対象者の内訳(国籍)／JLPTの資格取得の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	-0.277 0.004**
No.2	表2・表5	調査対象者の内訳(国籍)／悩みを相談できる人物の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	0.105 0.279
No.3	表2・表9	調査対象者の内訳(国籍)／健康状態の良し悪し	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	-0.123 0.206
No.4	表2・表11	調査対象者の内訳(国籍)／ストレスの有無	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	-0.0276 0.777
No.5	表2・表12	調査対象者の内訳(国籍)／孤独感の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	0.000614 0.995
No.6	表2・表13	調査対象者の内訳(国籍)／将来への不安の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	-0.0649 0.504
No.7	表2・表14	調査対象者の内訳(国籍)／体調不良時の通院の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	0.0754 0.438
No.8	表2・表17	調査対象者の内訳(国籍)／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	0.203 0.035*
No.9	表2・表20	調査対象者の内訳(国籍)／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	NA NA	NA NA	0.101 0.299
No.10	表3・表5	JLPTの資格取得の有無／悩みを相談できる人物の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.0722 0.600	0.196 0.16	0.0325 0.739
No.11	表3・表9	JLPTの資格取得の有無／健康状態の良し悪し	スピアマンの順位相関係数 P値	0.37 0.006**	0.164 0.242	0.298 0.002**
No.12	表3・表11	JLPTの資格取得の有無／ストレスの有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.0542 0.694	0.12 0.393	0.0916 0.346
No.13	表3・表12	JLPTの資格取得の有無／孤独感の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.0434 0.753	-0.172 0.219	-0.101 0.299
No.14	表3・表13	JLPTの資格取得の有無／将来への不安の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.153 0.266	0.0872 0.535	0.133 0.17
No.15	表3・表14	JLPTの資格取得の有無／体調不良時の通院の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.287 0.034*	0.0176 0.901	0.133 0.168
No.16	表3・表17	JLPTの資格取得の有無／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.0538 0.697	0.0384 0.785	-0.0619 0.524
No.17	表3・表20	JLPTの資格取得の有無／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.0745 0.589	0.109 0.438	0.0558 0.566
No.18	表5・表9	悩みを相談できる人物の有無／健康状態の良し悪し	スピアマンの順位相関係数 P値	0.115 0.405	0.212 0.127	0.149 0.123
No.19	表5・表11	悩みを相談できる人物の有無／ストレスの有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.185 0.176	-0.0955 0.496	0.0527 0.588
No.20	表5・表12	悩みを相談できる人物の有無／孤独感の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.00167 0.99	-0.19 0.173	-0.0974 0.316
No.21	表5・表13	悩みを相談できる人物の有無／将来への不安の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.134 0.328	0.0951 0.498	0.113 0.242
No.22	表5・表14	悩みを相談できる人物の有無／体調不良時の通院の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.0555 0.687	0.199 0.154	0.132 0.174
No.23	表5・表17	悩みを相談できる人物の有無／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.139 0.311	0.0748 0.594	-0.0103 0.916
No.24	表5・表20	悩みを相談できる人物の有無／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.0222 0.872	0.0338 0.81	0.0312 0.749
No.25	表9・表11	健康状態の良し悪し／ストレスの有無	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.0538 0.696	-0.234 0.0918	-0.113 0.245
No.26	表9・表12	健康状態の良し悪し／孤独感の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.0000766 1.000	-0.294 0.033*	-0.116 0.23
No.27	表9・表13	健康状態の良し悪し／将来への不安の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.025 0.856	-0.355 0.009**	-0.148 0.126
No.28	表9・表14	健康状態の良し悪し／体調不良時の通院の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.257 0.0579	-0.0954 0.497	0.096 0.323
No.29	表9・表17	健康状態の良し悪し／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.228 0.0946	0.0139 0.922	-0.135 0.164
No.30	表9・表20	健康状態の良し悪し／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.0286 0.836	0.459 <0.001***	0.118 0.223

***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05

出典：筆者作成。

<表23>各項目の相関対応表2

番号	対応表	項目内容		ネパール	ベトナム	全体
No.31	表11・表12	ストレスの有無／孤独感の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.669 <0.001***	0.638 <0.001***	0.651 <0.001***
No.32	表11・表13	ストレスの有無／将来への不安の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.565 <0.001***	0.557 <0.001***	0.566 <0.001***
No.33	表11・表14	ストレスの有無／体調不良時の通院の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.0562 0.683	0.28 0.042*	0.139 0.152
No.34	表11・表17	ストレスの有無／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	0.161 0.241	0.000477 0.997	0.0769 0.429
No.35	表11・表20	ストレスの有無／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.14 0.308	0.113 0.42	0.118 0.223
No.36	表12・表13	孤独感の有無／将来への不安の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.524 <0.001***	0.393 0.004**	0.469 <0.001***
No.37	表12・表14	孤独感の有無／体調不良時の通院の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.00781 0.955	0.0813 0.563	0.0381 0.695
No.38	表12・表17	孤独感の有無／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	0.226 0.0975	0.21 0.13	0.212 0.028*
No.39	表12・表20	孤独感の有無／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.21 0.124	0.045 0.749	0.127 0.190
No.40	表13・表14	将来への不安の有無／体調不良時の通院の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.117 0.393	0.0179 0.899	0.065 0.504
No.41	表13・表17	将来への不安の有無／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	0.127 0.355	0.0177 0.9	0.0484 0.619
No.42	表13・表20	将来への不安の有無／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.381 0.004**	-0.0749 0.594	0.162 0.095
No.43	表14・表17	体調不良時の通院の有無／日本の生活の状況	スピアマンの順位相関係数 P値	-0.137 0.317	-0.26 0.060	-0.177 0.067
No.44	表14・表20	体調不良時の通院の有無／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.0698 0.613	0.0798 0.57	0.0764 0.432
No.45	表17・表20	日本の生活の状況／大学等での健康などの支援の必要性の有無	スピアマンの順位相関係数 P値	0.153 0.264	-0.0321 0.819	0.085 0.382

***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05

出典：筆者作成。

「ストレスの有無」(<表11>)と「孤独感の有無」(<表12>)との間で相関が最も強く認められた(<表23>)。

次いで、ネパール人留学生に焦点を当てて見ていくと、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)と「健康状態の良し悪し」(<表9>)($r = 0.37, p = 0.006 < 0.01$)、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)と「体調不良時の通院の有無」(<表14>)($r = 0.287, p = 0.034 < 0.05$)、「ストレスの有無」(<表11>)と「孤独感の有無」(<表12>)($r = 0.669, p < 0.001$)、「ストレスの有無」(<表11>)と「将来への不安の有無」(<表13>)($r = 0.565, p < 0.001$)、「孤独感の有無」(<表12>)と「将来への不安の有無」(<表13>)($r = 0.524, p < 0.001$)、「将来への不安の有無」(<表13>)と「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)($r = 0.381, p = 0.004 < 0.01$)では、いずれも双方との間に正の相関が認められ、両者の相関は統計学的に有意であった(<表22>及び<表23>)。ネパール人留学生では、外国人留学生全体と同様に「ストレスの有無」(<表11>)と「孤独感の有無」(<表12>)との間で相関が最も強く認められた(<表23>)。

最後に、ベトナム人留学生に焦点を当てて見ていくと、「健康状態の良し悪し」(<表9>)

と「孤独感の有無」(<表12>)($r = -0.294, p = 0.033 < 0.05$)、「健康状態の良し悪し」(<表9>)と「将来への不安の有無」(<表13>)($r = -0.355, p = 0.009 < 0.01$)では、それぞれ双方との間に負の弱い相関があり、両者の相関は統計学的に有意であった(<表22>)。次いで、「健康状態の良し悪し」(<表9>)と「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)($r = 0.459, p < 0.001$)、「ストレスの有無」(<表11>)と「孤独感の有無」(<表12>)($r = 0.638, p < 0.001$)、「ストレスの有無」(<表11>)と「将来への不安の有無」(<表13>)($r = 0.557, p < 0.001$)、「ストレスの有無」(<表11>)と「体調不良時の通院の有無」(<表14>)($r = 0.28, p = 0.042 < 0.05$)、「孤独感の有無」(<表12>)と「将来への不安の有無」(<表13>)($r = 0.393, p = 0.004 < 0.01$)では、いずれも双方との間に正の相関が認められ、両者の相関は統計学的に有意であった(<表22>及び<表23>)。ベトナム人留学生では、外国人留学生全体と同様に「ストレスの有無」(<表11>)と「孤独感の有無」(<表12>)との間で相関が最も強く認められた(<表23>)。また、「悩みを相談できる人物の有無」(<表5>)と「健康状態の良し悪し」(<表9>)($r = 0.212, p = 0.127 > 0.05$)では、正の弱い相関が認められ、「体調不良時の通院の有無」(<表14>)と「日本の生活の状況」(<表17>)($r = 0.26, p = 0.060 > 0.05$)では負の弱い相関がそれぞれ見られたが、両者の相関は統計学的に有意な差は認められなかった(<表22>及び<表23>)。

4.2 外国人留学生の健康に影響を及ぼす要因

外国人留学生の健康に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的として、「健康状態の良し悪し」(<表9>)を目的変数とし、「調査対象者の内訳(国籍)」(<表2>)、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)、「悩みを相談できる人物の有無」(<表5>)、「ストレスの有無」(<表11>)、「孤独感の有無」(<表12>)、「将来への不安の有無」(<表13>)、「体調不良時の通院の有無」(<表14>)、「日本の生活の状況」(<表17>)、「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)をそれぞれ説明変数として設定し、強制投入法を用いて重回帰分析を行った(<表24>)(自由度調整済み決定係数=0.1563, $p = 0.002 < 0.01$)。

その結果、外国人留学生の健康に影響を及ぼす要因として、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)($p = 0.003 < 0.01$)、「将来への不安の有無」(<表13>)($p = 0.041 < 0.05$)、「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)($p = 0.050 < 0.05$)との間で有意な結果が認められた。しかしその一方で、健康に影響を及ぼす要因として、「悩みを相談できる人物の有無」との間で有意な結果は認められなかった($p = 0.084 > 0.05$)。

<表24>外国人留学生の健康に影響を及ぼす要因

	回帰係数推定値	95%信頼区間下限	95%信頼区間上限	標準誤差	t統計量	P値	vif
切片	1.709	0.307	3.112	0.707	2.418	0.017*	-
悩みを相談できる人物の有無	0.158	-0.022	0.339	0.091	1.743	0.084	1.089
JLPTの資格取得の有無	0.725	0.258	1.191	0.235	3.085	0.003**	1.190
将来への不安の有無	-0.265	-0.518	-0.011	0.128	-2.072	0.041*	1.590
大学等での健康などの支援の必要性の有無	0.254	0.001	0.508	0.128	1.989	0.050*	1.057
ストレスの有無	-0.117	-0.391	0.157	0.138	-0.849	0.398	2.204
調査対象者の内訳(国籍)	-0.265	-0.731	0.200	0.235	-1.130	0.261	1.188
孤独感の有無	0.096	-0.172	0.363	0.135	0.709	0.480	2.157
体調不良時の通院の有無	0.073	-0.116	0.261	0.095	0.766	0.446	1.128
日本の生活の状況	-0.137	-0.353	0.080	0.109	-1.253	0.213	1.156

**:p<0.01, *:p<0.05

出典：EZRの分析結果を基に筆者作成。

5. 外国人留学生の健康とソーシャルキャピタル

3章及び4章を通して外国人留学生の健康とソーシャルキャピタルに関する調査の結果を基に、様々な側面から検討を行ってきた。両章で得られた知見を基に、本章では論を進めていく。

まず、JLPTの資格の有無等の点から見ていくと、ネパール人留学生とベトナム人留学生との間に有意な差が認められ、ネパール人留学生の方がJLPTの資格取得が少なく、その資格取得は両国ともに2級と3級に集中している傾向が見られた。加えて、JLPTと健康状態の良し悪しにおいて弱い正の相関が見られた。この要因として、「健康がすぐれない理由」(<表10>)で精神面に問題を抱えている学生が多く見られることや、「体調不良時に通院しない理由」(<表15>)で両国ともに「日本語に不安がある」をその理由を挙げている学生が多く見られることから、日本語能力に自信がないことや、自分の伝えたいことをうまく相手に説明する日本語能力の運用力の低さ等が健康状態の良し悪しに影響を与えているものと考えられる。とりわけ、ネパール人留学生では、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)と「体調不良時の通院の有無」(<表14>)との間に弱い相関が見られることや(<表22>)、JLPTの資格取得が僅か34.5%(<表3>)に留まっていることからその傾向が強いものと考えられる。加えて、ベトナム人留学生においては、「体調不良時に通院しない理由」(<表15>)において、「どこの病院に行ったら良いかわからない」と回答している学生も多く見られ、外国人留学生の中に

は病院に行くことに若干敷居の高さを感じている学生もいるものと推察される。従って、体調不良時に通院できるように外国人留学生への病院紹介支援や、日本語の通訳支援等の支援の重要性が指摘できる。

次に、「ストレスの有無」(<表11>)、「孤独感の有無」(<表12>)、「将来への不安の有無」(<表13>)等の点から見ていくと、両国ともに孤独感を感じていない学生よりも孤独感を感じている学生の方が少ない傾向が見られた。しかし、その一方で、ストレスを抱えている学生や将来への不安を感じている学生が相対的に多い傾向が見られた。<表23>でも「ストレスの有無」(<表11>)と「孤独感の有無」(<表12>)、「ストレスの有無」(<表11>)と「将来への不安の有無」(<表13>)、「孤独感の有無」(<表12>)と「将来への不安の有無」(<表13>)において相関が見られた。つまり、他者とのソーシャルキャピタルの結びつきが弱く孤独感を感じることで、それがストレスの有無や将来への不安の有無等の精神面に影響を与えているものと考えられる。加えて、「孤独感の有無」(<表12>)と「日本の生活の状況」(<表17>)においても弱い正の相関が見られた(<表23>)。日本の生活状況(<表17>)においても日本での生活が大変であると回答している学生が多く見られ、その理由として学費や家賃、生活費等の金銭的な要因が影響していることが明らかとなっているが(<表18>)、日本での生活の大変さ等を相談したり分かち合ったりすることが出来る友人等の有無等による他者とのソーシャルキャピタルの結びつきの弱さが孤独感にも影響を与えているものと考えられる。

次に、国別に焦点を当てて見ていく。まずネパール人留学生であるが、「将来への不安の有無」(<表13>)と「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)において正の弱い相関が見られた(<表23>)。これは、<表13>において41.9%の学生が将来への不安を感じていると回答しており、且つ<表20>で実に74.5%の学生が大学等での健康等の支援が必要であると回答していること、JLPTの資格取得の有無(<表3>)において、ネパール人留学生の資格無取得者が65.5%であることから、将来日本で就職できるか不安を抱えている学生が多いものと推察され¹⁰⁾、それが<表21>の同じ国籍の職員によるカウンセラーや教員による悩み相談等の必要性にもつながっているものと考えられる。従って、精神的なサポートとして同じ国籍の職員によるカウンセラーや教員による悩み相談の必要性も示唆される。

次に、ベトナム人留学生について健康状態の良し悪し、ストレスの有無等に焦点を当てて見ていくと、「健康状態の良し悪し」(<表9>)と「孤独感の有無」(<表12>)との間で負の弱い相関が見られ(<表22>)、他者とのソーシャルキャピタルの結びつきが弱いことによって生

10) 執筆者が実際にF大学で担当をしていたネパール人留学生の多くがJLPTの資格を取得していないため、将来就職できるか不安に感じていた学生が多く見られた。

じる孤独感が健康状態の有無に影響を与えているものと考えられる。その他に、「健康状態の良し悪し」(<表9>)と「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)との間では正の相関が(<表22>)、「ストレスの有無」(<表11>)と「体調不良時の通院の有無」(<表14>)においても正の弱い相関がそれぞれ見られ(<表23>)、ベトナム人留学生は、体調不良時の通院の有無において56.6%の学生が体調不良時に通院していないことや(<表14>)、<表21>の「大学等での健康関連での必要な支援の内容」において、1位の「同じ国籍の職員のカウンセラー」に次いで「健康診断」が11人(33.3%)と多く見られることから、精神的なサポートを目的としたカウンセラーと同様に健康診断等の健康に関するサポート等への関心が影響を与えているものと考えられる。

最後に、外国人留学生の健康に影響を及ぼす要因について重回帰分析を行った結果、「JLPTの資格取得の有無」(<表3>)、「将来への不安の有無」(<表13>)、「大学等での健康等の支援の必要性の有無」(<表20>)が外国人留学生の健康に影響を与えていることが認められた(<表24>)。つまり、本章の冒頭の部分でも触れたが、ネパール人留学生及びベトナム人留学生ともに非漢字圏ということもあり日本語能力において不安を抱えている学生が多く見られる。それが、将来への不安等の精神的なストレスにも繋がり健康に影響を与えているものと考えられる。これらの健康上の問題を改善するために、大学等での健康等の支援の重要性が示唆されている。従って、外国人留学生に対する日本語学習の支援や彼ら・彼女らの精神的なサポートを目的としたカウンセリング等による精神的なサポートの重要性が指摘できる。

6. 終わりに

本稿では、外国人留学生の健康とソーシャルキャピタルの関連性等について見てきた。それらから得られた知見として、第一に、「悩みが相談できる人物」、「病気時等に期待されるサポート授受の対象」及び「日本の生活で大変な時に期待されるサポート授受の対象」において、ネパール人留学生及びベトナム人留学生ともに「大学の同じ国籍の友人」と回答している学生が最も多い点が共通して見られた。従って、何か問題や相談があった時に最も頼れる相手として同じ国籍の友人とのソーシャルキャピタルの結びつきが強く見られる。しかし、その一方で、「悩みが相談できる人がいない理由」、「病気時等に期待されるサポート授受の対象」及び「日本の生活で大変な時に期待されるサポート授受の対象」において、誰か

らもサポートを受けたり悩みを相談できる人物がいないと回答している学生も多く見られ、他者とのソーシャルキャピタルの結びつきが弱い学生も見られた。とりわけ、ベトナム人留学生は、上記3点の該当者が最も多く見られることから、その傾向が顕著にみられる。第二に、上記のような他者とのソーシャルキャピタルの結びつきの弱さが、「孤独感」や「ストレスの有無」及び「将来への不安の有無」等の精神面にも影響を与えていることが明らかとなった。第三に、JLPTの資格の有無や将来への不安等が外国人留学生の健康に影響を及ぼしていることが明らかとなった。最後に、外国人留学生の精神面や健康面の支援として、日本語学習支援、同じ国籍の職員のカウンセラーによる悩み相談等の支援、病院紹介支援、通院時の日本語の通訳支援等の様々なサポートの重要性が指摘できること等が明らかとなった。

現在、我が国では多くの外国人留学生が勉学に日々励んでいる。昨今のコロナウィルス感染症の感染拡大等により、外国で生活をしている外国人留学生にとってこうした不測の事態に対して一人で対応するにはおのずと限界があり、精神面や健康面への影響は大きいものと考えられる。その為には、大学を始めとして、外国人留学生が生活している地域等の様々なアクターが彼ら・彼女らの精神面、健康面等のサポートをしていく取り組みが必要ではないだろうか。このような取り組みをしていくことで、えてして孤独に陥りがちな外国人留学生と地域の人々や外国人留学生の支援に携わっている人々との間でソーシャルキャピタルの構築にも繋がるものと考えられる。それが惹いては外国人留学生の精神面や健康面の向上にも繋がるものと考えられる。

以上見てきたように、本稿で得られた知見は今後の外国人留学生の健康とソーシャルキャピタルを考える上で重要な示唆を与えるものと考えられる。

【参考文献】

- 相田潤・近藤克則(2014)「ソーシャル・キャピタルと健康格差」『医学と社会』24巻 1号、医療科学研究所、pp.57-74、https://www.jstage.jst.go.jp/article/iken/24/1/24_57/_pdf/-char/ja(2021年12月15日)。
- 秋谷公博(2021)「外国人留学生の留学におけるソーシャルキャピタルに関する研究～ネパール人留学生及びベトナム人留学生の事例より～」『日本近代学研究』韓国日本近代学会、pp.257-280
- アジア・ゲートウェイ戦略会議(2007)「アジア・ゲートウェイ構想」、<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/asia/kousou.pdf>(2021年12月15日閲覧)。
- 安婷婷・永井智(2019)「抑うつ状況における中国人留学生の援助要請行動のプロセスの関連要因：日本語学校の中国人留学生と日本人大学生の比較より」『コミュニティ心理学研究』23巻 1号、日本コミュニティ心理学学会、pp.34-51、https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscpjjournal/23/1/23_230101/_pdf/-char/ja(2021年12月15日閲覧)

- 稲葉陽二(2011)「序章 ソーシャルキャピタルとは」、稲葉陽二、大守隆他編、『ソーシャル・キャピタルのフロンティア—その到達点と可能性』ミネルヴァ書房、pp.1-9
- 小寺さやか・上谷真由美・中島英・千場直美(2018)「日本の大学に在籍する外国人留学生の保健行動と関連要因に関するパイロットスタディ」『国際保健医療』33巻 4号、日本国際保健医療学会、pp.325-336、https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaih/33/4/33_325/_pdf/-char/ja(2021年12月15日)
- 自治医科大学附属さいたま医療センター血液科HP、「無料統計ソフトEZR(Easy R)」、<https://www.jichi.ac.jp/saitama-sct/SaitamaHP.files/statmed.html>(2021年12月15日)
- 関根仁博・李環・井上寛規・広田茂・要藤正任・瀬藤和也・田原康玄・松田文彦・矢野誠(2020)「生活習慣の改善に関わる健康行動に対する意欲とソーシャル・キャピタル」『KIER Discussion Paper』No.2001、京都大学経済研究所、pp.1-17、<http://hdl.handle.net/2433/262376>(2021年12月15日閲覧)
- 中央教育審議会大学分科会留学生部会(2002)「資料4-2 留学生交流関係施策の現状等について(資料編)：(2-1)当初の「留学生受入れ10万人計画」の概要」、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101/2-1.htm(2021年12月15日閲覧)
- 西日本新聞me(2021.12.12.)「来日足踏みいつまで 実習生と留学生 コロナに阻まれ」、<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/845913/>(2021年12月15日閲覧)
- 西日本新聞me(2021.6.22.)「在住外国人の困窮掘り起こし コロナ禍、福岡市の団体が食料支援通し」、<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/758611/>(2021年12月15日閲覧)
- 日本学生支援機構(2021)「2020(令和2)年度外国人留学生在籍状況調査結果」、https://www.studyin-japan.go.jp/ja/_mt/2021/04/date2020z.pdf(2021年12月15日閲覧)
- 儘田徹(2010)「日本におけるソーシャル・キャピタルと健康の関連に関する研究の現状と今後の展望」『愛知県立大学看護学部紀要』VOL.16、愛知県立大学看護学部、pp.1-7
https://aichipu.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1432&file_id=18&file_no=1(2021年12月15日閲覧)
- 宮川公男、大森隆(2004)「序文」宮川公男・大森隆編『ソーシャル・キャピタル』東洋経済新報社、p. 劉寧・チメドオチルオドゲレル・居林興輝・藤野善久・松田晋哉(2020)「在日外国人の自覚的健康度について - 就労有無による影響 - 」『産業医大誌』42巻 3号、産業医科大学、pp.267-274、https://www.jstage.jst.go.jp/article/juoch/42/3/42_267/_pdf/-char/ja(2021年12月15日閲覧)
- Kanda Y. (2013) Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZR' for medical statistics. Bone Marrow Transplantation 48,452-458、<https://www.nature.com/articles/bmt2012244.pdf>(2021年12月15日閲覧)
- Nan Lin(2001)“Social Capital: A Theory of Social Capital Structure and Action”, Cambridge University Press, UK(ナン・リン著、筒井淳也、石田光規、桜井政成、三輪哲、土岐智賀訳(2008)『ソーシャル・キャピタル—社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房、p.32)
- Robert D. Putnam(1993)“Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy”, Princeton University Press, USA(ロバート・D. パットナム著、河田潤一訳(2001)『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』NTT、pp.206-207)

논문투고일 : 2021년 12월 24일
심사개시일 : 2022년 01월 16일
1차 수정일 : 2022년 02월 14일
2차 수정일 : 2022년 02월 18일
게재확정일 : 2022년 02월 22일

〈要旨〉

外国人留學生の健康とソーシャルキャピタルに関する研究

－ネパール人留學生及びベトナム人留學生の事例より－

秋谷公博

本研究はネパール人留學生とベトナム人留學生の事例を基に、外国人留學生の健康とソーシャルキャピタルの関連性等について明らかにすることを目的としている。本研究の目的を達成するために実施したアンケート調査の結果を基に分析を行った。その結果、第一に、ネパール人留學生及びベトナム人留學生において同じ国籍の友人とのソーシャルキャピタルの結びつきが共通して見られること、第二に、他者とのソーシャルキャピタルの結びつきの弱さが、精神面に負の影響を与えていること、第三に、外国人留學生の精神面や健康面のサポートとして、日本語学習のサポートや同じ国籍の職員のカウンセラー等のサポートが重要であること等が明らかとなった。

Study on the Social Capital and Health in International Students

－Case study of Nepalese Students and Vietnamese Students in Japan－

Kimihiko, Akiya

This paper explores the factors that influenced the relationship between the health and social capital of international students related through the cases of Nepalese and Vietnamese students in Japan. The survey finds that: (1) there were common connections with social capital among students from the same nationality; (2) the weakness of social capital connection with the other people has made a negative impact on the mental health; and (3) the support system from Japanese language teachers and counselor staff of the same nationality had a great impact on the mental health and physical health of international students.